松本市文化財調査報告 No.125

松本城下町跡

ISEMACHI

伊　勢　町

—第2～7次試掘調査報告書—

1996.3

長野県松本市教育委員会

例　言

1．本書は平成７年度に実施した松本城下町跡伊勢町の埋蔵文化財試掘調査報告書である。

2．本調査は中央西土地区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急調査で、国庫補助事業として実施したものである。

3．本調査および本書の作成は、(財)松本市教育文化振興財団へ委託し、考古博物館が実施した。

4．平成７年度には６件（第２次～第７次）の調査を実施した。このうち、第２次および第５次調査を報告する。

5．調査は、関沢　聡、古幡昌史、澤柳秀利、今村　克（第２・３次）、竹内靖長、荒木　龍（第４次～第７次）が担当した。

6．本書の執筆・編集は、竹内靖長、今村　克が行った。また、本書作成にかかわる作業分担は、下記のとおりである。

図面類調整　：赤羽包子

トレース　　：開嶋八重子、竹原久子、松尾明恵

遺物写真撮影：宮島洋一

7．出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館（〒390　長野県松本市大字中山3738-1　TEL0263-86-4710）が保管している。

調査体制

調査団長　守屋立秋(松本市教育長)

調査担当者　関沢　聡、竹内靖長、澤柳秀利、今村　克、荒木　龍(考古博物館)

調　査　員　太田守夫、竹原久子、松尾明恵、宮島洋一、望月　映

協　力　者　赤羽包子、五十嵐周子、石合美子、入山正男、内沢紀代子、内田和子、大角けさ子、大月八十喜、岡村行夫、開嶋八重子、小林　隆、斉藤政雄、坂口ふみ代、鷲見昇司、竹平悦子、中村恵子、林　和子、藤井源吾、藤井道明、布野行雄、洞沢文江、道浦久美子、MIN AUNG THWE 、村松恵美子、百瀬二三子、矢崎寛子、吉田　勝

事　務　局

市教育委員会：岩淵世紀(文化課長)、木下雅文(課長補佐)、窪田雅之(主任)

(財)松本市教育文化振興財団

事　務　局：大池　光(事務局長)、太田陽啓(局次長)、櫻井荘作(次長補佐)

考古博物館：熊谷康治(館長)、松澤憲一(主査)、古幡昌史(主任)、遠藤　守(主事)、秋山桂子(～H8.1)

1．平成７年度伊勢町地点の発掘調査概要

平成７年度は、中央西土地区画整理事業に伴い５件の発掘調査を実施した。伊勢町関連では、平成６年度以来７箇所の発掘調査を実施してきた。今年度の調査は個人店舗関連のものが多く調査面積は狭いものの、大きな成果を得ている。各調査地点の主な概略は、以下のとおりである。

第２次調査では、松本城下町関連では初めて寺院跡の調査に着手した。調査地点は、松本城主石川氏の極楽寺、水野氏の春了寺、戸田氏の全久院と江戸時代をとおして寺院地であり、各寺に対応する３層の整地層が確認されている。

第３次調査では町屋の建物跡が調査され、幕末頃の火災による焼土層が発見された。

第４次調査は十王堂推定地縁辺にあたったが、江戸時代の遺構・遺物は発見されなかった。絵図・土層などから、十王堂は調査地の東側に位置しているものと推定される。

第５次調査では、町屋の建物跡と鍛冶炉が良好な状態で発見された。これにより、鍛冶職人の居宅であることが判明した。

第６・７次調査では、町屋の建物跡が良好な状態で検出された。

平成７年度までに伊勢町で実施された発掘調査については下記の一覧表に記し、調査位置は次頁の第１図にまとめた。

第１表　松本城下町跡伊勢町地点調査一覧表

調査次数	所　在　地	原 因 事 業	調 査 期 間	調 査 面 積
1	松本市中央２丁目345-1他	㈱パルコ増築	H7.2/20～3/27	900㎡　（×４面）
2	松本市中央２丁目172-28	区画整理道路建設	H7.7/19～9/6	110㎡　（×３面）
3	松本市中央２丁目266-1他	区画整理個人店舗	H7.8/22～8/24	18㎡　（×２面）
4	松本市中央１丁目44-4他	〃	H7.11/29～12/1	35㎡　（１面）
5	松本市中央１丁目312	〃	H7.12/4 ～12/22	65㎡　（×３面）
6	松本市中央２丁目272-1	〃	H8.1/8～1/16	28㎡　（×３面）
7	松本市中央１丁目319-1他	〃	H8.1/17～2/2	90㎡　（×２面）

伊勢町地区　第１～７次調査地点

第１図　調査地の位置

2．第２次調査

(1)はじめに

調査地は、松本市中央二丁目172-28に所在する。松本城下町跡伊勢町（現在の伊勢町商店街）の北裏にあたり、女鳥羽川に近接している。享保13年（1728年）に作成された絵図等から全久院跡と考えられている地点である。

調査は、松本市中央西土地区画整理事業にともない、道路および緑地公園として計画された110㎡について実施された。調査期間は、平成７年７月19日から同年９月６日まで行われた。事前調査としては、同年６月14日にバックホーを用いて試掘調査を実施した。

(2)検出遺構

各検出面で確認された遺構は次のとおりである。

第１検出面……竪穴状遺構２、土坑６、ピット17、溝１

第２検出面……建物址２、土坑９、ピット23

第３検出面……柱列１、土坑１、ピット９

次に、各検出面ごとの主な遺構について記述する。

①第１検出面

第１号竪穴状遺構

調査地南西に位置する。遺構全体の形状は不明。壁高は15cmを測る。覆土は橙色～赤褐色の焼土と炭化物で覆われ、３cm～拳大の鉄滓が多く含まれていた。火事によって消失したものか鍛冶屋のような施設があったのかは不明である。

第５号土坑

調査地中央東側に位置する。検出面上面では10～20cmの礫が集中して検出され、掘り下げたところ、長軸120cm、短軸100cmの楕円形の土坑を検出した。深さは58cmを測る。さらに調査区東側からこの土坑に接続する溝状の遺構が延びているのが確認された。また土坑の底面中央には直径約50cmの桶状木製品が残存していた。覆土は鉄・マンガンが集積した灰褐色土である。これらの点から、調査地東側からの水を集めた施設と考えられる。

②第２検出面

第１号土坑

調査地中央西寄りに位置する。直径110～120cmの不整円形を呈する。深さは34cmを測る。遺物は土坑底面に約50cmと90cmの棒状鉄製品が出土している。

第２号土坑

調査地南側に位置する。直径130cmの不整円形を呈する。深さ27cmを測る。遺物は骨、銅製品、土器、炭化物がある。土坑墓と考える。

③第３検出面

柱列

調査地南側に位置する。検出面では直径30～40cmの円形に暗灰色の覆土が認められた。掘り下げたところ、いずれのピットとも中心に直径16～18cmの円形空洞部分があり、中に柱状木質部が残存していた。建物址の柱穴と考えられる。

(3)遺物

出土した遺物について各検出面ごとにふれる。

①第1検出面

18世紀後半の肥前系磁器（皿、碗）を中心として、京都系の陶器（碗）、在地産のかわらけ（灯明皿）などが出土している。溝1出土の肥前系筒茶碗は19世紀前半の所産である。また、戸田家の家紋である離れ六つ星の入った桟瓦も同時に出土している。その他寛永通寶が4点、煙管の雁首が1点出土している。

②第2検出面

瀬戸美濃系陶器では17世紀前半の志野の碗や天目碗、鉄釉の皿、18世紀代の碗がある。肥前系磁器では17世紀代の皿や18世紀代の皿、筒茶碗がある。土坑1出土の棒状鉄製品の種類は現時点では不明である。土坑2出土の骨の種別も同じく判明していない。その他寛永通寶が1点、煙管の雁首が1点出土している。

③第3検出面

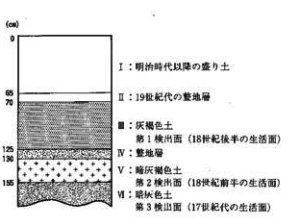
内耳鍋、かわらけが出土している。時期は17世紀代の所産か。寛永通寶が1点出土している。

(4)まとめ

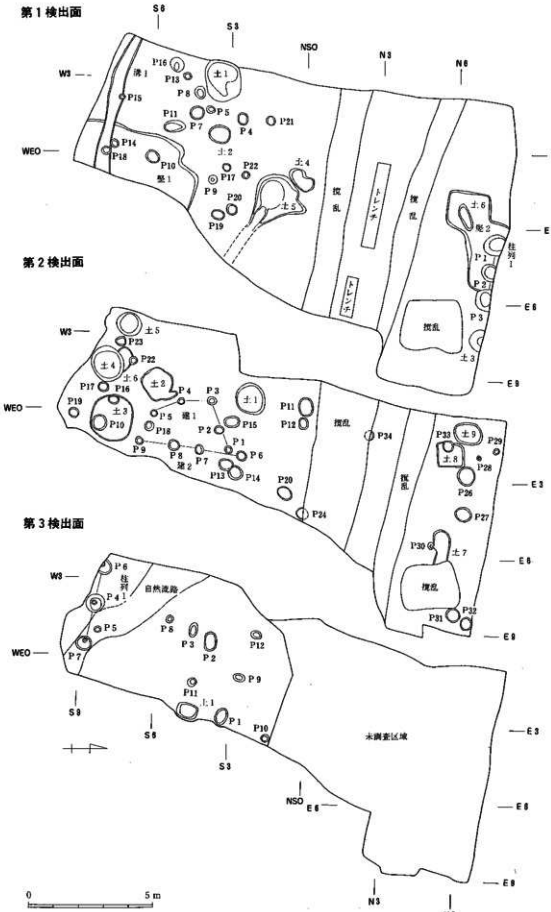
今回の調査地は前述したように全久院跡と考えられている地点である。全久院については、資料から元和3年（1617年）に戸田康長が群馬県高崎城主から松本城主に移封されたことにともない中町に移された。その後享保11年～明治4年まで再び松本藩藩主になった戸田家の時代に今回の調査地に建立され、明治の廃仏毀釈によって廃絶したとある。さらにこの地は、寛永19年～享保10年水野氏の菩提寺であった春了寺が置かれ、古くから寺社地であったことが伺われる。

調査の目的としては、絵図や文字資料から見られる寺社地の具体的な様相を発掘調査によってつかもうとした。この点から調査結果を検討してみると、遺構では第2検出面の土坑群を土坑墓として考えれば、18世紀代の墓域の一端をとらえたと言えよう。しかし、それが春了寺時代のものか、全久院時代のものか判断することは遺物の時間巾が大きく困難である。また第1検出面で確認された多量の焼土を伴う竪穴状遺構も寺社地内のどの様な施設を考えたらよいか難しいと言えよう。今後予定される周辺での寺院址の調査結果から再度検討すべき課題であろう。

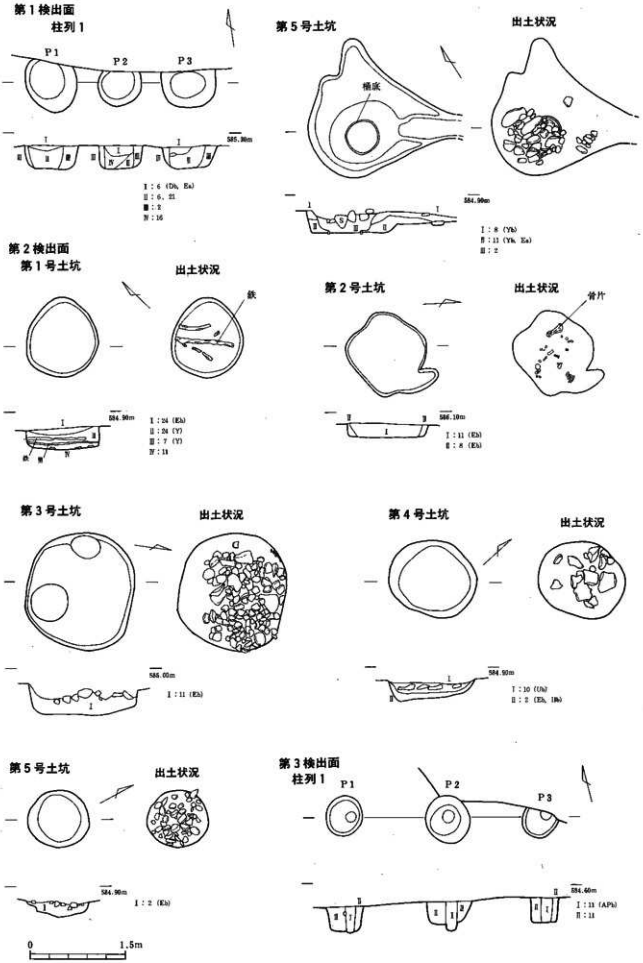
最後に、調査にご協力下さった作業員の皆様ならびに関係各位に文末ではありますがお礼申し上げます。



第2図　基本土層


第1検出面
第2検出面
第3検出面
S6
S3
NSO
N3
N6
W3
WEO
E3
E6
E9
溝1
溝2
土1
土2
土3
土4
土5
土6
土7
土8
土9
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
住居1
住居2
撹乱
トレンチ
自然流路
未調査区域
0
5 m

第3図　遺構配置


第1検出面
柱列1
P1
P2
P3
585.30m
Ⅰ：6（Db, Ea）
Ⅱ：6, 21
Ⅲ：2
Ⅳ：16
第5号土坑
出土状況
桶底
584.90m
Ⅰ：8（Yb）
Ⅱ：11（Yb, Ea）
Ⅲ：2
第2検出面
第1号土坑
出土状況
鉄
584.90m
Ⅰ：24（Ea）
Ⅱ：24（Y）
Ⅲ：7（Y）
Ⅳ：11
第2号土坑
出土状況
骨片
586.10m
Ⅰ：11（Eb）
Ⅱ：8（Ea）
第3号土坑
出土状況
585.00m
Ⅰ：11（Ea）
第4号土坑
出土状況
584.90m
Ⅰ：10（Db）
Ⅱ：2（Eb, Ib）
第5号土坑
出土状況
584.90m
Ⅰ：2（Ea）
0
1.5m
第3検出面
柱列1
P1
P2
P3
584.60m
Ⅰ：11（APb）
Ⅱ：11

第4図　第2地点遺構図

3．第５次調査

(1)調査の概要

本調査は、松本市中央１丁目312番地において中央西土地区画整理事業に伴って実施した発掘調査である。調査地は、松本城下町跡伊勢町地点の町屋跡にあたる。中藤　淳氏の川辺文書の研究によれば、寛文９(1669)年および享保９（1724）年の記録から、調査地周辺に鍛冶屋が住んでいたものと推定されている。今回の調査では鍛冶炉が良好な状態で検出され、古文書からの推測を裏付けることになった。調査面積は65㎡×３面、調査期間は平成７年12月４日から同年12月22日までである。

(2)検出遺構

①層序

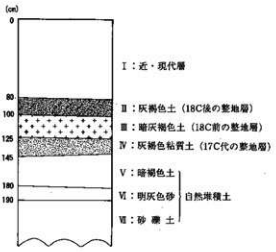
調査地南端で深さ２ｍの試掘坑を掘り、土層断面を観察した。２ｍまでの間に、７つの土層が確認できた。第Ⅰ層は明治時代以降の近・現代層である。第Ⅱ～Ⅳ層は江戸時代の整地層と考えられ、各層の上面を江戸時代の遺構検出面として捉えた。各層の時期は、遺物等からⅡ層（第１検出面）：18世紀後半、Ⅲ層（第２検出面）：18世紀前半、Ⅳ層（第３検出面）：17世紀代と推定される。Ⅴ～Ⅶ層は、自然堆積土である。城下町が作られる以前は、河川の氾濫および滞水していた痕跡が窺え、安定した良好な土地ではなかったと考えられる。

②第１検出面（18世紀後半）

第１検出面で確認された遺構は、建物址２棟、土坑13基、鍛冶炉５基、ピット１個である。以下、遺構別に記述する。

建物址　建物址は２棟確認されている。これらはすべて、布掘り工法により基礎が作られている。調査範囲が狭いため、建物址の全形は不明である。１建の基礎の掘り方は、幅55～70cm、深さ15～25cmを測る。掘り方内部には、拳大から人頭大の礫がグリ石として入れられていた。２建も全形は不明であるが、掘り方は幅60～70cm、深さ15～25cmを測り、１建同様に内部にグリ石が入れられていた。

鍛冶炉　調査区北側に５基検出された。いずれも覆土中には炭・焼土粒・鉱滓が厚く堆積していた。規模および平面形は、長径130～200cm ・短径80～95cmの楕円形を呈する。ほとんどが、被熱により底面・壁面が赤色に変色しており、特に底面中央部付近は最も強く被熱を受けていた。



第５図　基本土層

鍛冶炉１：調査区北端で検出された。平面形は不整楕円形、規模は長軸180cm、短軸77cmを測る。炉内面は全体的に被熱しており、特に底面中央部が著しく被熱して赤く変色していた。本址の覆土中には、鉱滓が多量に堆積しており、0.5 ～１cmぐらいの小片と５～20cmの大きい塊のものに大別される。

③第２検出面（18世紀前半）

第２面からは、建物址１棟、鍛冶炉14基、土坑７基、ピット２個、埋設甕１個、石列が発見された。

建物址１　調査区南側で検出されている。本址は布掘工法により、基礎の地固めがなされている。掘り方は、幅60～80cm、深さ10～25cmを測る。掘り方内部には、拳大～人頭大の礫が人為的に入れられている。

鍛冶炉　第２面では14基の鍛冶炉が検出されている。調査区北側に重複しながら密集して分布している。規模は、長径25～120cm・深さ10～25cm、平面形は円形・楕円形・不整形のものがみられる。各鍛冶炉に共通していえる特徴としては、内面のほぼ全面に被熱痕が認められ、部分的に青灰色粘土がみられる。この粘土は、他遺跡の調査例から推定すると（註１）、鞴の羽口を据え付けるのに用いられたと考えられる。埋土には、焼土粒、炭、鉄滓が厚く堆積していた。特に、鍛冶炉１・２は、鉄滓が厚く堆積していた。

鍛冶炉17：平面形は隅丸方形で、規模は長軸80cm、短軸70cmを測る。内面に被熱痕がみられ、底面および壁面は赤色に変色していた。底面には、鞴羽口がかたまって出土している。しかし完形品はなく、すべて破片であり、廃棄されたものと考えられる。また、一部には青灰色の粘土がみられた。

鍛冶炉20：長径120cm・短径95cmの楕円形を呈する。内面は全面被熱痕がみられたが、特に底面中央部分が著しく赤色に変色していた。本址南東隅には、青灰色粘土がみられ、そこから鞴羽口が出土している。

④第３検出面（17世紀代）

第３面からは、土坑７基、ピット１個が検出された。このうち第４号土坑は、ゴミ穴と考えられる。他の土坑は、遺物も少なく用途等は不明である。１・２検出面とは違い、鍛冶炉・建物址は発見されなかった。遺構のあり方も、比較的散在的である。

(3)出土遺物

遺物で最も量が多いのが陶磁器類であるが、鍛冶炉から出土した鞴羽口や鉄滓などもかなりの量におよぶ。

陶磁器　瀬戸・美濃系陶器（碗・皿・すり鉢など）、肥前系磁器（染付碗、染付皿・青磁皿など）

土　器　カワラケ・内耳鍋が出土している。

鞴羽口　破片数では60点近い鞴羽口が出土している。完形品はなく、いずれも長さ25cm以下に破損している。胴部径８～９cm、孔径1.8～2.5cmのものが多くみられる。

鉄鉱滓　鍛冶炉や土坑から出土した。形状は２種類みられ、碗形や不定形の比較的大きい塊と粒子状になった小片のものがみられる。

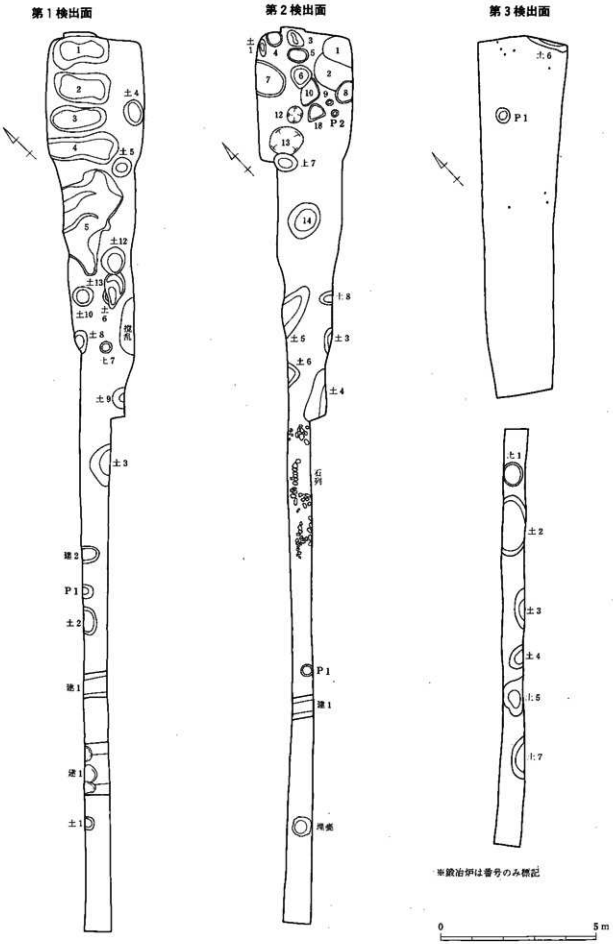
金属製品　銭貨（寛永通宝）、煙管などが出土した。

石製品　砥石が２点出土している。

(4)まとめ

今回の調査地では、第１・第２検出面において鍛冶炉が発見された。これらは、敷地内の道路側に集中してみられ、敷地の裏側にはみられなかった。このことから鍛冶屋の作業スペースは、道路側に近い場所にあると推定できる。しかも同一検出面における鍛冶炉の数が多く、重複もみられるため、比較的短期間のうちに作り替えられ、作業場の中で点々と場所を変えていたものと考えられる。また、敷地裏側には廃棄土坑（ゴミ穴）が集中して検出されている。このことから、町屋の短冊型の敷地内の空間利用としては、表側が店や作業空間、中央部が生活空間、奥側が土蔵や廃棄土坑を掘るための空間という傾向がいえよう。

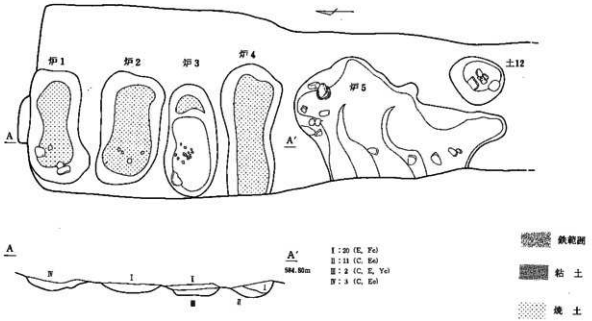
註１：和歌山市鷺ノ森遺跡の江戸時代の鍛冶屋町の発掘調査例を参照した。


第１検出面
第２検出面
第３検出面
土4
土5
土12
土13
土10
土6
土8
土7
土9
土3
建2
P1
土2
建1
建1
土1
土1
土3
土4
土5
土6
土7
土8
土6
土3
土4
石列
P1
建1
焼土
P1
土6
土1
土2
土3
土4
土5
土7
※鍛冶炉は番号のみ標記
0
5 m

第６図　遺構配置

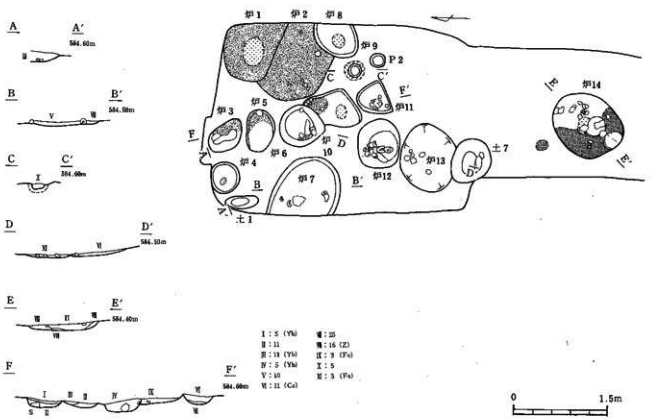
第１検出面

鍛冶炉出土状況



第２検出面

鍛冶炉出土状況



第７図　第５地点遺構図

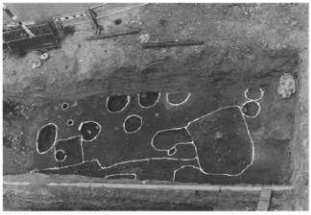
土　層

作業風景

第１検出面全景

第１検出面土坑５

第２検出面全景（南側）

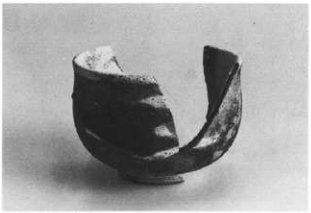

第２検出面全景（北側）

第２検出面土坑１

第３検出面全景

図版１　第２次調査（遺構）

碗（磁器・1検）

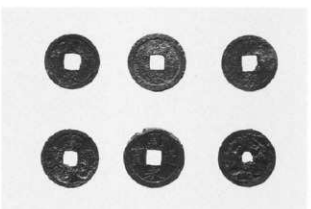


碗（陶器・1検）

灯明皿（2検）

煙管雁首（上1検・下2検）

桟　瓦



銭貨（寛永通寶）

桟　瓦

桟　瓦

図版2　第2次調査（遺物）

第１検出面全景

第１検出面南側

第２検出面北側（鍛冶炉）

第２検出面南側

第２検出面（第６号鍛冶炉）

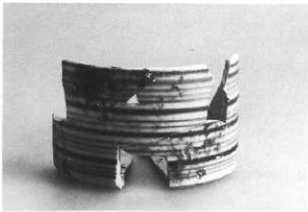
第２検出面（第７号鍛冶炉）

第２検出面（埋設甕）

第３検出面南側

図版３　第５次調査（遺構）

染付碗（磁器・1検）

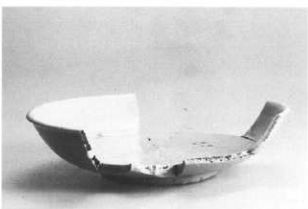


染付鉢（磁器・1検）

鉢（陶器・1検）

鉄釉灯明皿（陶器・2検）

鉄釉摺鉢（陶器・2検）



青磁皿（磁器・3検）

箱庭道具（2検）

輔羽口（2検）

図版4　第5次調査（遺物）

松本城下町跡　伊勢町　第２～７次試掘調査報告書抄録

ふ り が な	まつもとじょうかまちあといせまち
書　　名	松本城下町跡伊勢町 ―第２～７次試掘調査報告書―
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№125
編 著 者 名	竹内靖長・今村　克
編 集 機 関	長野県松本市教育委員会　（松本市立考古博物館）
所　在　地	〒390　長野県松本市丸の内３番７号　（松本市大字中山3738-1　TEL0263-86-4710）
発 行 年 月 日	平成８年(1996)年３月21日　（平成７年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
まつもとじょうかまち 松本城下町	ながのけんまつもとし 長野県松本市	20202	50	36′ 13′ 42″	137″ 58′ 7″	960719～ 970202	（合計） 522㎡	区画整理

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
松本城下町	城下町	近　世	建物址　9 土坑　49 溝　3 鍛冶炉　19 埋設甕　1	陶磁器：瀬戸・美濃産、肥前産、京都産ほか 金属製品：銭貨、煙管、鉄鉱滓ほか 木製品：下駄、曲物、漆椀ほか 石製品：砥石、石臼ほか	

松本市文化財調査報告　№125
松本城下町跡　伊勢町
―第２～７次試掘調査報告書―
発行日　平成８年３月21日
発行者　松本市教育委員会
長野県松本市丸の内３番７号
印　刷　アサカワ印刷株式会社